



酒田光陵

スポーツ・文化後援会

会報
第4号
2020.6

目次 | 全国大会出場15団体
全国大会回出場者 コメント……4P～7P



令和元年度 収支報告

【収入の部】

単位:円

科目	予算額	決算額	比較増減(△)
1.会費	4,177,000	4,634,500	457,500
(1)同窓会員	1,795,000	1,700,000	△ 95,000
(2)保護者	2,178,000	2,744,500	566,500
(3)職員	204,000	190,000	△ 14,000
2.寄付金	1,000,000	947,497	△ 52,503
3.同窓会負担金	0	0	0
4.繰越金	2,077,862	2,077,862	0
5.雑収入	138	0	△ 138
合 計	7,255,000	7,659,859	404,859

収入総額 7,659,859

支出総額 3,944,359

差引残額 3,715,500(次年度繰越金)

会計監査報告書

令和元(平成31)年度決算につき、事業報告並びに収支報告書および関係帳簿類などを監査したところ、適正に処理されておりますのでご報告申し上げます。

令和2年 4月24日

監事 山本 政史

監事 斎藤 英樹

監事 田代 典子

【支出の部】

単位:円

科目	予算額	決算額	比較増減(△)
1.事務費	500,000	351,199	△ 148,801
2.スポーツ文化振興費	6,000,000	3,093,160	△ 2,906,840
(1)特別強化費	3,000,000	2,011,151	△ 988,849
(2)育成支援費	2,500,000	1,082,009	△ 1,417,991
(3)文化活動事業費	500,000	0	500,000
3.職員費負担金	0	0	0
4.積立金	500,000	500,000	0
5.予備費	255,000	0	△ 255,000
合 計	7,255,000	3,944,359	△ 3,310,641

令和2年度 一般会計予算

【収入の部】

単位:円

科目	予算額	前年度予算額	前年度決算額	比較増減(△)
1.会費	4,512,000	4,177,000	4,634,500	335,000
(1)同窓会員	1,700,000	1,795,000	1,700,000	△ 95,000
(2)保護者	2,634,000	2,178,000	2,744,500	456,000
(3)職員	178,000	204,000	190,000	△ 26,000
2.寄付金	500,000	1,000,000	947,497	△ 500,000
3.同窓会負担金	0	0	0	0
4.繰越金	3,715,500	2,077,862	2,077,862	1,637,638
5.雑収入	0	138	0	△ 138
合 計	8,727,500	7,255,000	7,659,859	1,472,500

【支出の部】

単位:円

科目	予算額	前年度予算額	前年度決算額	比較増減(△)
1.事務費	500,000	500,000	351,199	0
2.スポーツ文化振興費	6,000,000	6,000,000	3,093,160	0
(1)特別強化費	2,500,000	3,000,000	2,011,151	△ 500,000
(2)育成支援費	3,000,000	2,500,000	1,082,009	500,000
(3)文化活動事業費	500,000	500,000	0	0
3.職員費負担金	0	0	0	0
4.積立金	500,000	500,000	500,000	0
5.予備費	1,727,500	255,000	0	1,472,500
合 計	8,727,500	7,255,000	3,944,359	1,472,500

令和元年度 スポーツ文化後援会役員

【会 長】	齋藤 俊勝	大場 弥市	鈴木 和仁	
【副会長】	三浦 えみ	矢口 正昭	齋藤 雄一	三浦 典子
【理 事】	阿部 広幸	大川 和彦	佐藤 裕子	庄司 豊
	今野 紀生	佐藤 りか	佐藤 有二	増子 靖
	工藤 仁			
	大谷 哲史			
【監 事】	山本 政史	田代 典子	仁部 亨	

令和2年度 特別会計予算

【収入の部】

単位:円

科目	予算額	前年度予算額	前年度決算額	比較増減(△)
積立金	500,000	500,000	500,000	0
繰越金	2,200,000	1,700,000	1,700,000	500,000
雑収入	0	0	0	0
合 計	2,700,000	2,200,000	2,200,000	500,000

令和2年度

スポーツ・文化後援会へのご寄付のお願い

スポーツ・文化後援会は「酒田光陵高等学校の活性化」と「活力ある地域づくり」を目的として平成27年に設立されました。支援金は酒田光陵高等学校の生徒のスポーツ・文化活動の振興に活用させていただいております。

活力ある地域づくりと、スポーツ・文化活動の支援を通じた酒田光陵高等学校の活性化のため、ご支援・ご協力をお願いいたします。

寄 付 金
納入状況

令和2年3月31日現在で、
企業55社、個人延べ45名の皆様
方よりご支援をいただいております。

※令和元年度に頂戴した寄付金につきましては、
令和2年度の収入として計上させていただいております。

寄付申し込み 払い込み方法 振替口座のご案内

寄付は法人1口5,000円の2口以上、個人1口2,000円以上とさせていただきます。多くの皆様からのご協力をお願いいたします。本後援会のご寄付は所得控除の対象とはなりませんので、予めご了承ください。

■ 同封の郵便払込取扱票利用の場合 ……
最寄りの郵便局よりお振込みください

■ 他の金融機関よりお振込みいただく場合 ……
右記の口座にお振込みください

- ◆ 銀行名: ゆうちょ銀行
- ◆ 支店名: 二二九店
(ニニキュウテン)
- ◆ 預金種別: 当座預金
- ◆ 口座番号: 0128157
- ◆ 口座名:
酒田光陵高校スポーツ・
文化後援会会計

ご支援、ご協力をいただきました寄付金につきましては上記予算のとおり活用させていただき見込みとなります。振込みにつきまして不明な点等ございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

山形県立酒田光陵高等学校 スポーツ・文化後援会

事務局 / 〒998-0015 山形県酒田市北千日堂前字松境7-3

TEL.0234-28-8833 FAX.0234-28-8845

E-mail sportsbunka@sakatakoryo.jp





U20・18 日本陸上競技選手権大会



第32回東北高等学校剣道選抜優勝大会



酒田光陵高等学校
スポーツ・文化後援会
会長
大場 弥市

日頃より酒田光陵高校スポーツ・文化後援会に対して会員の企業、個人会員の皆様のご支援に對しまして、心より感謝申し上げます。

お蔭さまをもちまして本校生徒は運動部・文化部での充実した部活動を行うことができ、有意義な高校生活を送っており、その結果昨年度は運動部、文化部合わせまして70名を超える生徒が全国大会に出場を果たしました。その中でも複数の生徒が上位入賞など、優秀な成績を残しております。来年度開校から十年を迎える本校といたしましてもこのように生徒たちの活躍を、皆様にご報告できますことは本当に嬉し



校長
鈴木 和仁

平素より、皆様には本校教育活動に對しましてご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。お蔭さまで、生徒たちは、学業はもとより生徒会活動や部活動に情熱をもつて取り組むことができており、その成果は目覚ましいものがあります。令和元年度は、運動部9部(陸上競技、体操、弓道、剣道、水泳、ウエトリフティング、ボート、少林寺拳法、相撲)、文化部5部(書道、メカニカル技術機械技術班・電子機械技術班、環

い限ります。しかし皆様もご存じの通り今年に入ってから新型コロナウイルス感染症対策に基づく休業要請による休校、それに伴っての部活動の停止、各種大会の中止等により、教育環境がガラッと変わってしまいました。これからの生徒たちの教育環境がどうなっていくのか見通せない中ですが、今後の生徒たちの高校生活を充実させるためにも有意義な部活動を送ることは大変重要なことだと考えております。そのためにも会員の皆様は今後も末永いご支援をいただき、本校の部活動を応援していきたくと考えております。今後も学校とも協力しながら会員拡大を図り、より強力な後援会活動を進めてまいりたいと考えておりますので、会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

境エネルギー技術エネルギー技術班、商業技術簿記班・珠算班、ITサイエンス)、他に剣道と総勢70名を超える生徒が全国大会へ出場し、山形県の代表として活躍をしました。中でも、茨城国体少年男子Aやり投第3位、ジャパコンマイコンラリー全国大会準優勝、全国高総文祭書道部門奨励賞受賞など大きな成果をあげることができ、本校関係者のみならず、多くの人に感動を与えてくれました。今後も「進取 創造」の校訓のもと、教職員一丸となり、学校の活性化並びに地域社会に貢献できる人材の育成に努めて参りますので、皆様におかれましても、引き続き、本校教育活動に對しまして、ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



少林寺拳法部
宮本 海音

インターハイに出場して

今年は、本校から組演武で山形県の代表として出場することができました。選抜大会で見えたレベルの高い演武に近づけるために体力と筋力を付けることから始めました。そして、演武の精度とキレを出すために、練習量を増やし「魅せる演武」ができるように努力してきました。しかし、当然のことながら前回優勝出来た学校は連覇するために、より一層精進を重ねていました。その変化に對應し切れず、予選敗退となり、悔しい結果となってしまいました。しかし、今の私たちの全ての力を出し切り、またインターハイに出場した他の拳士の演武を見ることが出来たので、今後に活かしていけると 생각합니다。「悔しい」気持ちがありますが「後悔」はありません。少林寺拳法部の教えには、慈悲と勇気のどちらも兼ね備えてこそ「強さ」とあるという意味の「力愛不二」という言葉があります。この言葉を日々の活動に活かして予選突破を目標に今後も精進していきます。



相撲
秋葉 成海

相撲を通して得たもの

私は、相撲競技で二年間、インターハイに出場することができました。これは、私の周囲の人たちの多くの支えがあつて達成できたと思います。二年次では、決勝トーナメントに進出することができましたが、三年次では決勝トーナメントに進むことができ、進歩を感じました。私はインターハイや国体といった舞台を通して多くのことを得ることができました。その中でも私は「諦めない心」を大切にしています。私よりも格の高い選手に対しても怯むことなく、最後まで自分の最善を尽くして対戦してきました。後輩たちにもインターハイのような大舞台で闘争心を燃やして、上位入賞を目指し立ち向かってもらいたいと思います。私が相撲を続けることができたのは、家族、学校の先生方や指導者の応援とスポーツ・文化後援会の方々のご支援のお陰であり、心から感謝しています。社会人になつてからも相撲で得たものを大切にします。



メカニカル技術部
菅原 嘉人

挑戦の一年

私達は山形県メカトロアイディアコンテストに出場しました。県大会では、一回目で電源装置の接触不良になるというハプニングに見舞われましたが、しっかりと修理し、二回目では練習通りのパフォーマンスを発揮でき、優勝することができました。そして新潟県で開催された全国高校生ロボット競技大会への出場権を獲得しました。今年度で四年連続の全国大会出場を果たしましたが、予選ではミスをしてしまったため大きな点数が得られず、予選落ちという少し悔しい結果となってしまいました。また今年度は、福岡県で開催された若年者ものづくり競技大会や愛媛県で開催された全国選抜高校生溶接技術競技会など、様々な大会にチャレンジすることができました。来年度も後輩たちには多くの挑戦をしてもらいたいです。私達が活動するにあたりご支援頂いた沢山の先生方とスポーツ・文化後援会の皆様に心から感謝申し上げます。



商業技術部
珠算班
伊田 菜々子

全国大会に出場して

私は小学校の頃そろばんを習っており、それを活かしたいと思いこの部活動に入部しました。そして日々練習し県大会で練習の成果を出し切り全国大会に出場することができました。全国大会に出場することが決まった時はとても嬉しかったです。しかし、その反面、県の代表として出場するので、私で大丈夫なのかな...という不安もありました。全国大会の会場はとても大きく人も多く驚きました。また、県大会とは空気が全く違いましたが、競技は思っていたより緊張せず、リラックスして挑むことができました。それは顧問の先生やマネージャーのおかげだと思いました。結果は納得のいくものではありませんが、高校生活の思い出の一つ増えました。このような貴重な体験をできたのは、本校後援会の皆様、顧問の先生、マネージャー、同じ部活動の仲間のお陰です。今大会に出場したことは決して忘れません。本当にありがとうございます。



ITサイエンス部
岩間 一真

全国大会に出場して

私は若年者ものづくり競技大会の業務用ITソフトウェア・ソリューションズ部門に出場しました。練習では、競技で利用する物が去年と変わったことで、なかなか思うように行かず、挫折しました。しかし、周りの先生や同級生から支えられたことで、良い状態で本番に臨むことが出来ました。全国大会には、高等学校、専門学校、大学などから多くの学生が出場しました。ほとんどが年上だったこともあって、とても緊張しましたが、練習の成果を出し切ることができました。ほかの学生のプレゼンテーションを聞くと、自分よりも良い部分も多くあり、今後の参考にして自分の力にしていきたいと思っています。指導して頂いた先生、送迎してくれた家族、様々なご支援を頂いたスポーツ・文化後援会の皆さまに感謝を申し上げます。これからこの経験を活かし、さらに自分の力を高めるため精進します。ありがとうございます。

全国大会での活躍



2019年総文祭佐賀大会にて(写真右:石垣さん)

- 全国高等学校総合文化祭佐賀大会・書道部門
臨 西行「中務集」
- 全日本高校・大学生書道展
- 春秋書道全国展

奨励賞

全日本高校・大学生書道展賞

推薦・山形県知事賞



いしがき りこ
書道部 石垣 莉子さん

「憧れの先輩のように」

私は、一年生の頃から同じ作品を書き続けています。先輩のようになりたいと思い書き続けた作品で、奨励賞を頂けたことをとても光栄に思います。中務集は、字が細かく鋭い線質が特徴の作品なので、最初は特徴を捉えた作品を書くことが出来ませんでした。しかし、一生懸命に練習し顧問の先生にも丁寧に指導していただいた結果、納得のいく作品を書き、出品することが出来ました。

私がここまで必死に練習が出来たのも、いつも応援し支えてくれた家族や友人、後援会の方々や、丁寧な指導をしてくださった先生など多くの方々のおかげだと思います。自分一人の実力ではないというのを忘れず、携わってくれた多くの方々に感謝して生活していこうと思います。

書道を通して得た礼儀やマナー、日々の努力を続けることの大切さ、支援してくださった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、これからの新しい生活に生かしていこうと思います。



ジャパンマイコンカーラリー2020全国大会にて

- ジャパンマイコンカーラリー2020全国大会
CameraClass

準優勝



こばやし はやと
環境エネルギー技術部
エネルギー技術班 小林 隼士くん

「カメラマイコンカーに挑戦して」

私はジャパンマイコンカーラリー全国大会に出場し準優勝することができました。

カメラマイコンカーはCCDカメラでコースの白線を認識しながら走行していきます。学校で調整していた時は、太陽の光が入ってくる場所のため、カメラが白線を正しく認識することができず誤検出を繰り返してまともに走行できないことも多々ありました。正しく調整を行うためには周囲が暗くなる、夕方からプログラムやマシン調整をする必要もありました。

一月に北九州市で行われた全国大会では、二回走行してのベストタイムで順位が決まるレースにおいて、練習で苦労したことが報われ、二回とも完走することができました。優勝者とは約二秒の差で負けてしまいました。二十五回行われた全国大会で山形県勢では初めての入賞と聞いて苦労が結果につながり、うれしく思っています。



まつもと やまと
陸上競技部 松本 大和くん

「努力の大切さ」

やり投の魅力は何となく飛んできた時の爽快感です。遠くに飛んでいく槍を見ていると、自分の可能性がどこまでも広がっていくように感じられます。

私は何となく高校から陸上競技を始め、二年次までは東北大会出場がやっとという実力でした。しかし、二年次から指導体制が変わり、私の練習に対する意識も一転しました。できるまで何度も技術練習を繰り返したり、練習日誌で自己管理能力を高めたりすることで徐々に結果を残すことができるようになりました。

茨城国体で三位に入賞した試合は、九位に終わった沖縄インターハイと中盤まで同じ展開でした。しかし、私は勝負のかかった三投目でそれまでの自己記録を超え、目標であった全国入賞を手繰り寄せることができました。

努力によって、「自分ができる」という自信を持つことができた三年間の活動は、一生の財産となりました。支えて下さった沢山の方々に感謝します。ありがとうございました。

- 国民体育大会 やり投 …………… 3位
- インターハイ やり投 …………… 9位
- U18日本陸上競技選手権大会
やり投 …………… 5位



2019年茨城国体にて



くどう たつや
ウエイトリフティング部 工藤 達也くん

「インターハイに出場して」

- 国民体育大会 少年の部 61kg級
スナッチ … 5位 クリーン&ジャーク … 8位
トータル … 6位
- インターハイ 61kg級
スナッチ … 20位 クリーン&ジャーク … 30位
トータル … 23位



2019年インターハイにて(写真中央:工藤選手)

私はインターハイで入賞するために、弱点である脚力の強化に重点を置いて練習を続けてきました。脚力強化に必要なスクワットでは、限界に近い重量でも安定した姿勢で行えるように心掛けました。また、スナッチやクリーン&ジャークなどの競技種目では、鏡を見ながらフォーム修正をしたり、先生にアドバイスをもらったりしながら、技能向上に取り組んでいました。

インターハイでは、目標としていた入賞には届きませんでした。練習の成果を出し切ることができました。インターハイで見つけた課題の克服に向けて厳しい練習を続け、茨城国体で入賞することができました。

これまで指導しサポートしてくださった顧問の先生や先輩方、応援してくれた後輩や家族には、本当に感謝しています。

後輩たちには、自分たちが果たせなかったインターハイ入賞を目指して頑張ってもらいます。

令和元年度 全国大会出場の記録

運動部

陸上競技部

《インターハイ》

やり投 9位 松本大和(3-4)
走高跳 出場 佐藤隆生(3-3)
砲丸投 出場 大場健汰(2-5)

《国民体育大会》

やり投 3位 松本大和(3-4)

《U18日本陸上競技選手権大会》

やり投 5位 松本大和(3-4)

体操部

《インターハイ》

個人総合 出場 登坂琴乃(3-5)

剣道部

《インターハイ》

男子個人 出場 石井文貴(3-6)

《国民体育大会》

少年男子 出場
佐藤潤哉(3-8)・加賀飛翔(3-8)・
石井文貴(3-6)

水泳部

《インターハイ》

50m自由形 出場 佐藤ゆづか(2-5)

弓道部

《インターハイ》

男子個人 出場 安田尊(3-6)

男子団体 出場

江川龍之介(2-3)・安田尊(3-6)・
丸谷優太(3-9)・今井雄琉(2-6)・
成田迅人(3-4)・佐藤駿矢(3-4)

ウエイトリフティング部

《インターハイ》

61kg級
トータル23位 工藤達也(3-5)

61kg級
トータル35位 小野真拓(3-5)

89kg級
トータル18位 石黒陽生(2-7)

《国民体育大会》

61kg級 工藤達也(3-5)
スナッチ 5位
クリーン&ジャーク 8位
トータル 6位

ボート部

《インターハイ》

男子シングルスカル 出場

須田樹紀(3-6)

女子シングルスカル 出場

丸山遥(3-9)

男子ダブルスカル 出場

横山大輝(2-5)・進藤温翔(3-4)

《国民体育大会》

男子舵手付フォドルプル 出場
須田樹紀(3-6)

少林寺拳法部

《インターハイ》

男子組演武 出場

佐原匠(2-1)・宮本海音(2-6)

《全国選抜大会》

男子自由単独演武 出場
佐原匠(2-1)

相撲

《インターハイ》

個人戦 出場 秋葉成海(3-3)

《国民体育大会》

団体戦(5人制) 出場
秋葉成海(3-3)・小林航平(1-3)

《全国高校相撲選抜大会》

個人戦 出場 小林航平(1-3)
体重別個人戦(80kg級) 出場
小林航平(1-3)

剣道

《全国高校生剣道優勝大会》

女子個人

法形競技 1位 佐藤杏優(2-9)

最優秀 選手賞 佐藤杏優(2-9)

女子個人

実践競技 1位 佐藤杏優(2-9)

最優秀 選手賞 佐藤杏優(2-9)



文化部

書道部

《全国高等学校総合文化祭佐賀大会》 ・書道部門

奨励賞 石垣莉子(3-1)
入 選 齋藤芽衣(3-2)

《全日本高校・大学生書道展》

全日本高校・大学生書道展賞
石垣莉子(3-1)

《春秋書道全国展》

文部科学大臣賞 佐藤萌生(3-2)
春秋賞 菅原絢(3-1)
推薦・山形県知事賞 石垣莉子(3-1)
特選・山形芸術文化協会賞 齋藤和希(3-4)

特選・読売新聞社山形支局長賞

菅原萌(1-2)

特選

金賞

富樫紗希(1-1)

齋藤珠妃(3-1)

メカニカル技術部

《全国高等学校ロボット競技大会》

出場

《全国選抜高校生溶接技術競技会》

出場 高橋翔太(3-3)

《若年者ものづくり競技大会》

フライス盤職種 出場 掘瑛音(2-3)

環境エネルギー技術部

《ジャパンマイコンカーラリー2020全国大会》

CameraClass

準優勝 小林隼士(3-5)

出場 小松右(3-5)

商業技術部 珠算班

《全国高等学校珠算・電卓競技大会》

出場 伊田菜々子(3-8)

ITサイエンス部

《第11回情報処理選手権大会》

プログラミング部門

6位 工藤一真(3-9)

18位 松平陽(3-9)

《若年者ものづくり競技大会》

業務用ITネットワークシステム

管理職種

出場 後藤健瑠(3-9)

業務用ITソフトウェア・ソリューションズ

職種

敢闘賞 岩間一真(3-9)

全国大会に参加して



体操部
登坂琴乃



剣道部
石井文貴



水泳部
佐藤ゆづか



弓道部
安田尊



ボート部
進藤温翔

姉の背中を追いかけて始めた器械体操、インターハイの出場は入学当時からの目標でした。高校三年生となり、最後につかんだインターハイは鹿児島ということもあり、大変だったことを覚えています。初めての土地でもとてもワクワクしていましたが、会場に入った途端、その雰囲気や熱気に圧倒され、緊張感に襲われました。しかし試合が始まると集中し、いつも通りに演技をすることができ、楽しかったです。

日々の練習はつらく辞めたいと思ったことが何度もありましたが、新しい技を習得したり、大会で入賞するたびに体操が好きになりました。ここまで続けていてよかったと思います。

ここまで来ることができたのは、日々指導していただいた先生方、コーチ、仲間たち、そして一番近くでずっと支えてくれた家族、たくさんの方の協力があったからこそだと思っています。そして、ありがとうございました。そして後輩たちにも全国という大きな舞台で活躍することを期待して、応援しています。

私は、熊本で行われたインターハイに出場しました。いつもお世話になっている顧問の先生や家族・チームメイトに恩返し出来るように戦ってきました。

その大会での私の課題は、日ごろから言われている攻めと諦めない心を持ってベストを尽くすことでした。会場に入ると、大勢の観客がいて、空気が緊張していました。面をつけると、今までにないぐらい緊張していました。しかし、審判の合図と共に立ち上がると、だんだん緊張がほぐれ、自分の課題を思い出して、正々堂々と戦いました。相手は、兵庫の育英高校の選手でした。育英といえば、全国でも毎年活躍している高校です。相手も簡単に打たせてくれるような相手ではないので、頭をつかって相手を打とうとしていたか、結果は、負けてしまいました。

ことは出来ませんでした。インターハイという大きな舞台に立ち戦えたこと、これまでの過程の中で学んだことを活かしていきたいです。

私は、今回のインターハイで全国大会四回目の出場でした。インターハイに出場するのは今年が初めてで、いつもとは違う会場の空気にとても緊張しました。

私は出場するだけでなく、決勝に残って活躍したいと思い、それまでの練習や合宿などを頑張ってきたつもりでした。でも実際に全国の舞台に行く自分とレベルが全然違うことを身にしみて感じました。結局、ベストも出せずに決勝にも残れずに終わってしまいました。でもその中で東北と全国とのレベルの差を思い知ることができて、また次の大会に向けて頑張っていかなければいけないと思いました。

来年は私に協力してくれている水泳の仲間や、コーチ、家族、先生方への感謝の気持ちを全国大会での結果で恩返しできるように頑張っていこうと思います。

今回のインターハイで学んだ事を今後の大会に活かして、全国大会で活躍できる選手になれるように頑張ります。沢山の応援やサポート、ありがとうございました。

私は、今年のインターハイに個人・団体ともに出場しました。今回で全国大会に出場するのは三度目ですが、最後の大会という事で、今まで以上に緊張した大会でした。

そんな最後の大会で、私が学んだ事は、「前向きな気持ち」の大切さです。私は、個人戦の予選本番前の練習で、あまり調子が良くなく、予選突破も難しいような状態でした。しかし、そこで不安な気持ちにならずに、もつと調子が悪くなってしまうと今までの大会で学んでいたのと、控え室ではとにかく心を落ち着かせ、「自分なら出来る」と、前向きな気持ちにして本番に挑みました。すると、本番では調子が上がり、決勝戦まで進むことができました。個人・団体ともに、ベスト8に入る事ができました。本番で自分の全力を出せたと思います。

これから、さらに色々な事に挑むことになると思いますが、何事にも前向きに挑むことを忘れずに、頑張っていきたいと思っています。

私は今回の南部九州インターハイに出場し、高校生にとって最高レベルの大会で準々決勝を戦うという貴重な経験をすることができました。

私は2人で漕ぐダブルスカルという種目に出場しました。予選では、スタートで失敗してしまい、ベストタイムを出すことができず、4着という結果で2日目の敗者復活戦に回ることになりました。敗者復活戦では、終盤には体力的にもきつく諦めそうになりましたが、声を掛け合い、全力を出しきったことで、東北大会では負けていたライバル校に勝って、2着で準々決勝に進むことができました。

準々決勝では相手チームと最後まで競いましたが、準決勝には進むことができませんでした。しかし、諦めず続けてきた努力のおかげで、インターハイでも存分に戦うことができてとても嬉しかったです。

ボート部を応援してください。方々、本当にありがとうございました。